

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日13:00～14:00
 例会場 ANAクラウンプラザ
 グランコートホテル名古屋
 承認 2013年6月18日

会長 竹内 裕子
 幹事 片桐 栄子
 公共イメージ
 向上 早川 圭一



インスピレーションになる

2018～2019年度名古屋アイリスRCのテーマ

魅力あるアイリスに
 (健全健やかに成長するアイリス)

●お問い合わせ: office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト: http://www.nagoya-iris-rc.jp

第241回 例会

2018年8月8日 13:00～

- 司 会 林 功 例会運営・司会担当
- 斉 唱 我らの生業
- 出席報告 出席者数 25名 / 38名
 出席率 65.78 %
 前々回修正出席率 92.1 %
 米山奨学生 崔ワイカンさん
- ゲ ス ト
- ビジター 当クラブ名誉会員 八神基様
 栄RC 西田 充宏様

ニコボックス

- 当クラブ名誉会員 八神 基様
 米山のサイワイカンさん、卓話を楽しみにしています。
- 荒山久美 ロータリー財団委員長
 米山奨学生のサイワイカンさんが本日卓話をします。よろしくお願いします。
- 安井 忠 戦略委員長
 あついです。お盆が過ぎれば涼しくなります。頑張りましょう。
- 藤谷 猛 直前会長
 ガバナー補佐訪問とガバナー公式訪問が近づいてきました。特に公式訪問は名古屋名北RCとの合同例会となります。当クラブは初めてのホストを経験することになりますので、竹内会長、片桐幹事に恥をかかせないように頑張りましょう。
- 竹内 祐子 会長
 猛暑の中、八神名誉会員、栄RCの西山さん、サイワイカンさん、例会ご参加ありがとうございます。本日地区大会 11/11の出欠お返事お伺いに参ります。よろしくお願いいたします。

会長挨拶

皆さんこんにちは。台風の後の猛暑、40度を超える日が来るとは……とこの暑さにおびえています。世界がおかしいと完全に異常だと。やはり、「緑」が「森」がなくなりつつあることに恐怖を感じます。来年3月には植樹の行事もあります、こぞって参加いたしましょう。

そして、義援金のご協力、皆様ありがとうございました。送金致しました。感謝です。



さて、8/6は広島、8/9は長崎、8/15は終戦と73年前の出来事を、戦争を知らない私ですが、後世に伝えていく事、平和の大切さ、尊さを伝えていく事が大切だと思っています。

8月は、何かを感じ考える月だと。ロータリアンとしても「平和と紛争解決」のテーマに向かう一人として、今月は考え込んでしまいます。

「何ができるのであろうかと」。

これぞインスピレーションで「感じ」「考え」「探し」「少しでも行動」することなのでしょうが、まずは手元からと。

今朝、HPで見つけました。「浜松東RC」さんは「節食例会」として例会の食事代¥500をカットし「ポリオ撲滅寄付」にしているそうです。

そうなのです、まずは「手元」「足元」からなのです。そう何かを考えましょう。また、会長ラシン氏は、「後世に伝えていく事」「平和の大切さ、尊さを伝えていく事」はローターアクトの強化ともリンクしていると。

若いアクターにロータリアンの考え方を語り伝え、共に行動・活動していく事と語っています。「同じ地域の若い人たちで、地域社会を基盤としたアクターを増やし、地域を通して、ロータリアンがアクターやその地域を支援しましょう」と。

ローターアクトとロータリーとの関係を密にし「合同例会」「合同プロジェクト」例会にアクターを招きましょう。そしてロータリーファミリーとして迎え入れましょうとの事です。という事で、皆さん 11/23・24・25 ライラセミナーが開催されます。「心をつなげよう。共生と思いやり」のテーマで豊田市で開かれます。

地域の高校生～30歳まで青少年の推薦をお願い致します。詳しくはメールでの配信といたします。宜しくお願い致します。

卓 話

「道半ば」 米山奨学生 崔ワイカンさん

今日、私の卓話のテーマは道半ばです。なぜこのテーマにしたかという、この言葉は私の今の状態を表しているからです。それは「前に進んでいる」、「発展途上」ということです。道半ば、ということですので、まず歩く人を紹介したいと思います。

1991年6月6日生まれ。6は中国語では「順調」という意味もありますので、よく「つにてるね」と言われますが、実際に運はさほど良くはありません。この誕生日って何が特別か言うと、私のお父さんの誕生日と同じです。実家では、時々デパートで「親子が同じ誕生日ならプレゼントがもらえる」というようなキャンペーンがあります、それで少し得した気分なったりします。

6月6日生まれの双子座です。友たちによりますと、私はテンションが上がるときははしゃぎますが、黙っているとなんか怖いそうです。このことからよく「典型的な双子座」といわれますが、本人はあまり星座を信じていません。

趣味は文学と音楽、特に文学が大好きです。苦手科目は数学、英語は使えますがそんなには好きではありません。なのに専攻は数学と英語をバリバリ使う金融です。よく「謎の選択をする人だ」とツッコまれます。個人としては、頼りになれる姉キャラになりたいです。学部の際はクラスメートに「ウイお姉ちゃん」と呼ばれたりもしましたが、ここ数年周りの人に「実際は根っからの天然」というお墨付きを頂きました。

どうして天然と言われるのか、これには訳があります。学会に行く時に、一度新幹線を乗り間違えたことがありました。大阪に行くはずでしたが、気が付いたら東京行きの新幹線に乗ってしまい、慌てて新横浜で降車し、また反対方向に乗って、ぎりぎりセッションに間に合う、という波乱万丈の出来事がありました。

今でも電車がいささか苦手な天然がどうして日本に来たかという、少し話を遡る必要があります。



私は中国東北の出身です、もっと詳しく言うと、丹東という小さな町です。この町は北朝鮮とは川を挟んで向かい側にあります。東北ですので、冬は非常に寒いです。名古屋科学館では寒さを体験できる部屋があり、その温度は-26.5度です。私が入った瞬間、「ただいま」って感じがありました。

高校卒業までは丹東で過ごした私は、大学に上がると北京に行きました。母校の北京工商大学はこの非常に長い廊下が有名です。この廊下一つで、文系全ての建物が繋がります。沈んでいくような形をした広場の向こうには湖があり、この湖の近くで私たち合唱団は時々歌の練習をしていました。

大学二年生の時、留学することを決めました。当時の選択は二つありました：大学のイギリス五年一貫制留学プログラムと、日本の研究生制度。イギリスの方はどうしても費用が高い上、文化になじめる自信も食生活になれる自信もありませんでしたので、あまり気が進めませんでした。

日本に惹かれるきっかけはアニメでした。同年代で日本に来た留学生の多くはそうかもしれませんが、私の場合は、アニメは日本語独学の始まりでもありました。そして、日本は地理的に近いですし、文化的にも馴染みやすい、食文化も素晴らしい。留学先として、日本とイギリスの決着はほんの一瞬でした。

日本に来て、また日本に惹かれる瞬間が増えました。この二枚の写真は京都の貴船神社、2016年の年末神事の見学に行きました。ライトアップさ

れた貴船はとても美しい、写真を撮るには夜を待つしかなかったので、電車駅までのバスを諦めせざるを得ませんでした。下山の道はおよそ2キロ、左側には流れる貴船川の涼しげな音色、右側には深みのある山と木々、すべてを包み込む暗闇の中には微かに聞こえる虫の鳴く声。とても雰囲気のあるシチュエーションですが、一人でこわごとと歩く私には「なんか出そう」としか思いませんでした。

続いては嵐山の竹林と高台寺のライトアップの写真です。竹林の中を歩くのはとても落ち着いて神秘的でしたが、なぜか写真で抑えるとホラー映画のポスターみたいになってしまいました。この写真は二条城の見晴台でとりました。ちょうど友達が夏休みでアメリカから遊びに来ましたので、二人で着物体験をしてみました。真夏の京都はさすがに暑いですが、そして欧米の観光客の方に写真を撮られるのが印象的でした。

他にも大阪の住吉大社、東京の東京国立博物館、名古屋の豊国神社など、色んな所へ行き、色んな景色に癒されてきました。そんな日本に惹かれる中、たまに日本に引いた瞬間もありました。一人の中国人である私にとっては、時々日本人は曖昧すぎるように思います。日本文化の大切な醍醐味だと分かっている、その繊細な感性を理解するにはまだまだ時間がかかりそうです。

そんな日本に来た私のなしたいこと、または歩きたい道とも言えましょう、それは研究者になるという理想と、小説家という夢です。研究者になるには、研究活動(簡単に言えば論文を書いて学会などで発表する)と授業をしなければなりません。両方ともまだ新米で、至らないところも多くありますが、引き続き頑張りたいと思います。

先日、読者から私の小説に対するコメントがありました。自分が考えた物語に感動してくれて、そして励ましてくれる読者のコメントを読んで、やはりやりがいがあると思いました。

中国では、行きたいところを「道(どう)」、たどり着く術を「術(じゅつ)」と言います。私にとっては、その術は三つあると思います。まずは根性、これなしでは何も始まりませんし、始まっても長続きはできません、長続きの出来ない努力は実らないと思います。続いては感性。仕事は大切です、でも生活を仕事とイコールさせたくもありません、ちょっとした遊び心も人生には必要ではないかと思えます。

最後に、最も重要で基盤となるのは経済的基礎です。研究も取材も、経済的に難しい状況にあるとしたら、どれもできなくなるでしょう。発表に行く度

交通費や宿泊費はかかりますし、国際学会ならさらに渡航費が掛かることになります。最近国際学会の旅程を作って、ますます経済的基礎の重要性を感じました。ここでは、もう一度奨学生として選んでいただいたことに感謝を申し上げます。本当に、ありがとうございました。

そんなわけで、沢山の厚意に恵まれた私は、今は道半ばです。今後の景色を楽しみにしています。何より、今まで受けてきた厚意に報いることのできるような人間に、私はなりたいと思います。

以上 (原文通り掲載)

※ スライドをもとに卓話いただきましたが、スライドの掲載は割愛いたしました。